

# シリーズ 第92回 人権



## これからの私

「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担意識は、男女共同参画基本法が施行され20年以上が経過した今でも、私たちの社会の中に見え隠れしているのではないのでしょうか。

私自身、父は仕事、母は家事・育児といった家庭環境で育ってきました。ある日、母に「どうして会社で働かないの」と尋ねたとき「女性は家事、育児に専念しなきゃね」との返事があり、何気なしに「そういうものなんだ」と思って過ごしていました。

このような自分の中にある意識について考えさせられるきっかけがありました。それは、専門学校に通っているとき、先生からもらった「これから女性がどんどん活躍ができる場が増えるし、結婚して出産しても仕事が続けられる社会になっていくよ」との言葉です。時を同じくして、新聞やニュースなどで育児も仕事も両立する女性が増えていることや、ワークライフバランスの推進に向け企業が短時間勤務やフレックス出勤に取り組んでいること、男性の育児休暇取得などが話題となっていることが目に留まるようにもなりました。それからは次第に「そういった環境で働けたらいいな」と思い始めました。

それまでの私は「結婚して出産をしたら仕事は辞めるのかな」と思っていたのですが、「女性だから」といって諦めるのではなく、この先どうしていきたいかを決めていってもいいんだと気付きました。父と母はきっと「男は仕事、女は家庭」といった風潮の中で育ち、自分自身もそうでなければという意識の中で頑張ってきたのだと思います。

そんな父や母を否定することはできません。しかし、「男は、女は」といった固定的な見方が自分の中にあることに気付くきっかけがあれば、父も母も、そして私もそのような意識にとらわれることなく過ごせたのではと思います。

これからの社会は、今よりももっと全ての人が「男性だから」「女性だから」と固定観念にとらわれて生きにくさ、不合理を感じるようなことのない社会になってほしいと思います。私は全ての人が自身の思いや願いに合わせて柔軟に自分の生き方を選択できる、そのような社会をつくっていく一人として行動していきたいです。

(20代・女性)

## 人権豆知識

毎年6月23日～29日は  
男女共同参画週間

男女共同参画社会基本法の公布・施行日の平成11年6月23日を踏まえ、この1週間を男女共同参画週間としています。

この機会に、男性と女性が対等な立場に立って、家庭・職場・学校・地域などのあらゆる場面で、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会について考えてみましょう。